

取組実績の概要（2 ページ以内）

(1) 大学概要

横浜国立大学 (YNU) は、文明開化の発祥の地であり、高度の産業が集積する横浜に生まれ育った都市型高等教育機関として、自由で高い自律性を保つ堅実な学風の下、《実践性》《先進性》《開放性》《国際性》という4つの精神に基づいて、5学部（教育学部、経済学部、経営学部、理工学部、都市科学部）と5大学院（教育学研究科、国際社会科学府、理工学府、環境情報学府、都市イノベーション学府）において教育と研究を行い、社会の中核となって活躍する人材を育成し、社会を支える研究成果を発信して社会に貢献している。

人文・社会系学部と理工系学部が一つのキャンパスにある優位性と多くの留学生が学ぶ YNU の特色を活かし、文理融合と分野横断を追究するとともに、グローバルな視座を有しローカルな課題に対応できる人材を育成する。

(2) 事業概要

本事業は、入口（入学）から出口（卒業）までの質保証を伴った人材育成機能の抜本的強化に向けて、大学教育の質的転換を加速するため、**授業設計方法と成績評価の改善 (Phase 1)** による教育課程の体系化、成績評価基準の平準化への組織的な取組、**YNU 学士力と就業力の可視化 (Phase 2&3)** による学修成果の把握、その成果を踏まえた教育改善 PDCA サイクルの組織的な取組、**YNU 学生ポートフォリオ構築 (Phase 4)** による学生プロフィールとキャリアデザインファイルを通して学生自らの学修行動改善 PDCA サイクルの抜本的強化を目指した。

第3期中期目標計画における教育戦略の中核的な教育改革事業であり、学長を中心とする教学マネジメント体制を整備している。実施体制は理事・副学長（教育担当）をチーム長とし、各学部教務委員長、高大接続・全学教育推進センター長、学生 IR 統括部門長、教育開発・学修支援部門長、基盤教育部門長及び学務部長等で組織する **YNU 教学マネジメントチーム** を設置し、学務部教育企画課に支援室を置いている。



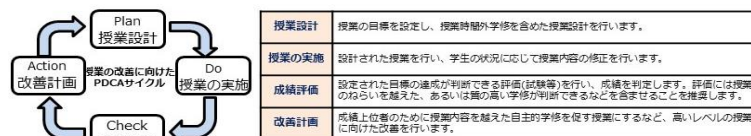
全学的な FD 活動は、高大接続・全学教育推進センター（教育開発・学修支援部門）において推進している。本学の FD 活動の特色は、教職協働 (FD/SD 活動) を志向し、すべての学部教授会と連携して開催する教授会 FD セミナーを実施している。

授業設計方法と成績評価の改善 <Phase1>

(3) 取組実績

本学の取組は**学生の主体的な学びのデザイン**をコンセプトに Phase1~4 の取組に分かれる。

Phase 1 では3ポリシーと教学マネジメント PDCA ポリシーの策定、科目ナンバーリングなど全学的な教育改革と連動し、授業設計と成績評価ガイドラインを策定し、全学統一の成績評価基準と授業科目別ルーブリックを導入した。



授業設計	授業の目標を設定し、授業時間外学修を含めた授業設計を行います。
授業の実施	設計された授業を行い、学生の状況に応じて授業内容の修正を行います。
成績評価	設定された目標の達成が判断できる評価(試験等)を行い、成績を判定します。評価には授業の進捗を踏まえ、あるいは高い学修が判断できることを含ませることを推奨します。
改善計画	成績上位者のために授業内容を充実した自主的学修を促す授業にするなど、高いレベルの授業に向けた改善を行います。

●「成績評価基準」の全学導入

- 教育改善PDCAサイクルによる成績評価の実現に向けて成績評価の基準を全学で統一。
- 教員間の成績評価の基準を統一し、学生が成績レベルを共通認識させて自主的な学修行動につながることを目指す。
- 成績評価の基準表は履修案内、シラバス、アカデミックリテラシー共通テキストで学生に周知。

秀	優	良	可	不可
履修目標を越えたレベルを達成している	履修目標を達成している	履修目標と到達目標の間に差をレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成できていない

○平成29年度以降
・成績分布Web学内公開システムを活用し、成績分布の推移や変化要因等の検証 など

●「授業別ルーブリック」の作成

- 授業ごとの成績評価の厳格化。
- 成績評価の項目と基準を授業ごとに学生に明確にすることによって主体的な学びを促す。
- 導入初年度(27年度)のルーブリック全学作成率43.6%、29年度目標70%達成に向けて教員への作成支援が重要。

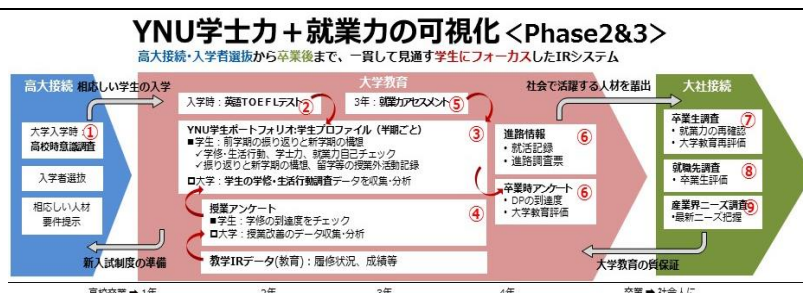
評価項目	評価基準		
	期待している以上の達成	十分に満足できる(期待値)	期待する努力を要する(期待値)
評価項目A			
評価項目B			
評価項目C			

○平成29年度以降
・オンラインのコメントルーブリックを充実し、作成率向上
・教授会FDセミナー等を通じて利用促進 など

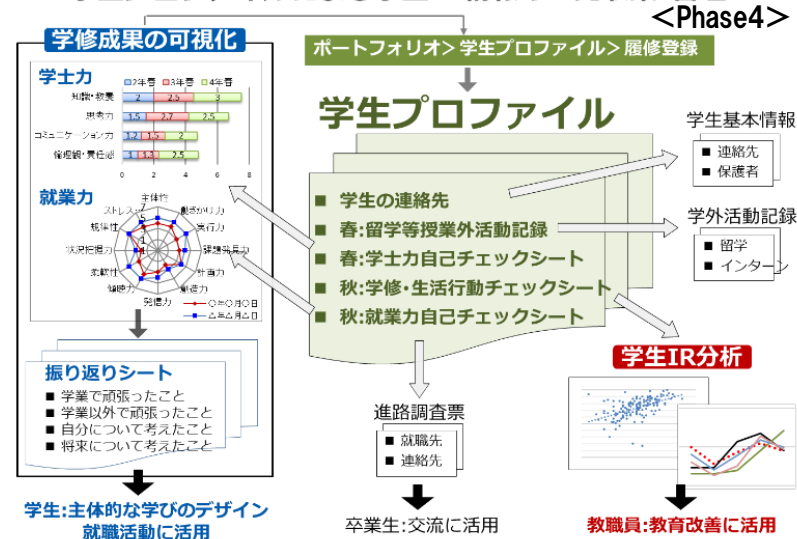
Phase 2, 3 ではディプロマ・ポリシーの学修成果に基づき、学士力と就業力を自己チェックし可視化するツールを開発した。さらに Phase 4 では、YNU 学生ポートフォリオに学士力と就業力の可視化ツールを含め、学生 IR データを一括収集する学生プロフィール機能を独自開発して組み込んだ。

Phase 1~4 までの事業を予定どおり実施し、結果、大学教育改革に資する成果を得ている。なお、本取組における主要な成果は次の 3 点である。

- 各学期の授業履修登録手順に学生プロフィールを組み込み、全学生が毎学期着実に入力する仕組みにしたことで、学生の主体的な学びのツールが実現したこと。
- 全数調査による詳細データを収集・分析できるようになり、教職員側も、教育改善のための基礎データが得られるようになったこと。
- 学修成果の可視化という本事業の枠を超えて、高大接続から卒業後まで一貫して学生にフォーカスする《教学・学生 IR》体制の実現は、一つのモデル提示になること。



学生プロフィールによる学生 IR 情報の一元収集・管理 <Phase4>



【必須指標の達成度】

	平成 26 年度 (起点)	令和元年度	
		目標	実績
①退学率	1.6%	1.8%	1.4%
②TOEFL テスト実施率	100%	100%	100%
③授業満足度アンケート実施する学生の割合	春 79.8%	100%	春 57.0%
④授業満足度アンケートにおける授業満足度	春 3.25	3.00	春 3.31
⑤学修行動調査実施率	100%	100%	100%
⑥学修達成度調査実施率	100%	100%	100%
⑦学生の授業外学修時間 (1 科目平均)	1.8H	3.0H	1.8H
⑦学生の授業外学修時間 (1W 平均)	5.4H	8.5H	6.2H
⑧主な就職先調査	有	有	有